

Episode
3

ともに熱くなれるスポーツ

「ラグビーはルールが難しい」という印象があると思いますが、実は、ラグビーの醍醐味は分かりやすく、ボールを持って押し合いをし、相手のゴールラインにボールを持って行けば得点です。お互いのゴールラインとの距離を観れば、ピンチやチャンスも一目瞭然！陸上選手並みのスピードで、ぶつかる激しさも、生で見ると迫力満点です。

トップチームには体格ではかなわないで、運動量をかなり重視していて、倒されてもすぐに起き上がって次のプレーに参加し、常にハードワークを心がけています

Episode
4

一緒に応援して盛り上がりましょう！

スタジアムでは、テレビに映らない場所も見える！

紳士のスポーツ

ラグビーの魅力の一つにその「激しさ」が挙げられますが、ラグビーは紳士のスポーツなので、相手へのリスペクトを忘れず、必要以上にケガにつながるプレーを行いません。お二人は、大きなケガの経験はあまり無いそうで、せいぜい「脱臼」くらいそうです。



「脱臼」って
まあまあ大きな
ケガでは…？

試合前は、相手チームのビデオをみんなで見ながら戦略を考えるみたい。仲がいい！

Episode
5

ラグビーは大学受験に通ずる



私たちの頭の片隅にチラついている大学受験。

桜庭さんから大学受験に通ずるお話しがありました。



不安は良いプレーにつながないので、試合前は、これまでに培ってきたことを100%発揮できるように気持ちの整理をしていました。

何事も準備が大事。
自らのできることを考え行動し続けることが大切。

テスト前に一夜漬けで
望むこともある私たちには
深く刺さる言葉。



この心の持ち方は
今後の人生に
活かしていく。



お話ししてくれた人
Key Person

桜庭 吉彦 さん

現釜石シーウェイブス ゼネラルマネージャー。秋田県出身で、秋田工業高校3年時に花園優勝を経験。卒業後、新日本製鐵釜石製鉄所に入社し、チームの顔として活躍。1986年に日本代表に初選出され、W杯にも1987・1995・1999の3大会に出場。



高橋 聰太郎 さん

釜石シーウェイブスでポジションはロック。釜石市出身。7歳の頃、ラグビー選手として活躍した父の影響でラグビーを始める。釜石高校を卒業後、明治大学へ進学。大学卒業後、釜石へと戻り、釜石シーウェイブスに入団。チームで最も釜石シーウェイブス歴が長い選手。



市内で広がる ワンチーム

市内でもラグビーに興味を持つ人が増えています。その中でも今回、釜石高校の2年生3人が取り組んでいるラグビーについての研究を紹介します。

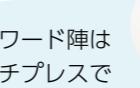
SSH (スーパーサイエンスハイスクール)
「地域に新しい価値を生み出す」を目標とする人材育成プログラム。生徒の興味関心毎にグループに分かれ、卒業生や地域、研究機関などとの協働を通して、主体性・科学的探究能力・国際的視野の獲得、発展を目指しています。

さまでなごとにトライ！

Episode
1

身边にいる トップ選手

テレビで見るイメージがあるトップ選手ですが、釜石にはたくさんのトップラグビー選手がいます！我々にとってトップ選手が身近にいることも釜石ラグビーの魅力です。



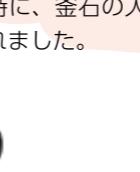
こんなのが
持ち上げられないよ～



フォワード陣はベンチプレスで200kg以上持ち上げます。スクランムでは、ファミリーカーを持ち上げられるくらいの力でぶつかり合います！力仕事はお任せを！



あたたかい人たちが多いですよね。高校時代、釜石ラグビーV7の試合の前座として試合をした時に、釜石の人が応援してくれました。



同じ釜石市民として誇らしい！



誰もがラグビーを一度は見たことがあるんじゃないかなといふくらい、ラグビーがまちの文化として溶け込んでいて、いろんな場所で受け入れやすいです。

Episode
2

ラグビー選手も 釜石 Love !

選手から見る釜石はどのように写っているのでしょうか。

